

カープファンは広島生まれにとっての宿命です。広島で子どもが生まれたら、お医者さんは「元気なカープファンが生まれましたよ」って言います。その後に「男の子でした」「女の子でした」という勢いです。逆に、広島で生まれてもカープファンでなかったら「人生で何かあったか」って聞かれます。

カープは復興の証です。子どもの頃、親父やお爺ちゃんに球場に連れて行ってもらおうと、その話から始まります。スポーツや娯楽、文化などの復興の中で、一つの柱がカープだった。カープファンは同志でもあり、焼け野原から一緒にまちを建て直した仲間意識がある。カープがファンとの絆が強いのは、それが今もどこかに残っているからだと思えます。

原爆ドームと厳島神社の二つの世界遺産があることもあって、近年、広島を訪れてくれる方が増えました。それ

は、まちが外向きになって来たことではないでしょうか。親父の世代はまだ外に目を向けるのは難しかったと思います。僕が小学校低学年くらいまでは、バラックの建物がいっぱいありましたからね。外に向けて気持ちを出せるようになったのは、ある意味、心も復興して来たのだと思います。建物は1945年に一度無くなっているまちです。当時は高層マンションやビルはほとんど無く、それが建つことは想像できませんでした。他のまちでは高い建物がいっぱい建ったら昔の面影が無くなってしまいますが、広島は一回焼け野原になっているので、変わっても広島なのです。「70年は草も生えない」と言われていましたが、既に70余年経ち「人は頑張ると、こんなことまでできるんだ」って思わせてくれます。これは僕にとって、広島の魅力の一つです。だから、漢字や平仮名や片仮名で書いても全部が広島です。

東京に来て感じたのは時間の流れ方が違うことです。広島の流れは、あの心地良いスピードの路面電車なんですね。本当に遅刻しそうな時は乗らない方が良いです。2~3駅ならダッシュした方がきっと速い。だけど乗るんですよ。路面電車に、広島の皆さんは。隣の駅も見えて「そこに要らないだろう」って東京の人は言うのですが、あるんですよ、駅が。その間合いだったり、時間の流れが残っている。周りに立派な建物がいっぱい建っても、路面電車は昔と同じスピードというのが素敵です。これがあるから、まちの見た目が変わっても「帰ってきた」という実感が沸きます。

広島は、今まではまちを元に戻すとか、豊かにすることを目標にしてきた。親父の世代はまちをゼロから建て直し、僕らはそれに感謝をしながら、まちをより良いものにしていく。僕の子供達の世代では、今度は世界へ広島を自

慢して欲しいと思います。今、瓦礫の山になっているまちは、世界中にいっぱいありますが、平和になった後、諦めずに頑張ったら「こんなにすごいまちが造れました」と。

僕より上の世代は、両親や祖父母の全員が被爆者です。僕らの世代は被爆二世とよく言いますが、親父の世代までは、そういうことを言えなかった時代です。隠さなければいけなかった時代を、親父の世代の方が頑張ってくれて、僕らの世代はそれを言えるようになりました。言えるようになったら、オバマさんも来てくれました。それにはやはり感慨深いものがあります。そろそろ「どうだ、すごいまちになっただろう」と世界に示しても良いのではないのでしょうか。今までの広島は悲劇のまちの代表格でしたが、僕の次の世代からは、今の広島が希望になってくれると嬉しいです。

広島城天守閣から南の平和記念公園方向を望む (写真:油谷百子)

特集
広島

MESSAGE 希望のまち広島



風見しんご
KAZAMI Shingo

プロフィール

1962年広島市出身。地元の町工場を経営する父の影響でエンジニアを目指し、広島学院中学校・高等学校に進学。周囲からは地元の広島大学を勧められたが、東京の成蹊大学に進学する。TBS「欽ちゃんの週刊欽曜日」でデビュー。テレビ、映画、舞台など幅広い分野で活躍。主な出演作は日本テレビ「マジカル頭脳パワー」「伊東家の食卓」、TBS「噂の!東京マガジン」「土曜ワイド劇場「タクシードライバーの推理日誌シリーズ」など。そして、2017年夏よりNHK・BSプレミアム「伝七捕物帳2」のレギュラー出演も決定。長野冬季オリンピックでは聖火ランナーとして広島市内を走った。また、交通安全運動キャンペーンや講演活動も行う。2014年より3年連続「広島東洋カープ公認応援隊員」に任命され、応援歌 (MAZDA Zoom-Zoom スタジアム放映中) 他ポスター、チラシなどで応援活動をしている。